

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 2 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008 年～2011 年

課題番号：20401032

研究課題名（和文） 四川省成都平原蒲江県域における秦漢代製鉄遺跡の調査研究

研究課題名（英文） Fieldwork and research on iron smelting sites of *Qin* and *Han* period in *Chendu* plain, *Sichuan* province

研究代表者

村上 恭通 (MURAKAMI YASUYUKI)

愛媛大学・東アジア古代鉄文化研究センター・教授

研究者番号：40239504

研究分野：考古学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：秦漢代、成都平原、製鉄遺跡、発掘調査、中国製鉄史

1. 研究計画の概要

目的：司馬遷『史記』にも製鉄記事の多い四川省成都平原において、発掘調査成果に基づく秦漢代製鉄遺跡を解明することを目的とする。

計画：2007 年度までに踏査によって、鉄滓、炉壁といった製鉄関連遺物が出土し、土器の出土によって漢代前後の時代が想定される遺跡を選定し、2008 年度以降、順次発掘調査する計画を立てた。毎年度、春期～秋期の間、発掘調査予定遺跡の予備調査・地主との交渉を実施し、12 月に発掘調査し、翌年 2、3 月に資料整理を実施することとした。

2. 研究の進捗状況

初年度にあたる 2008 年 5 月に四川大地震が発生し、その年は発掘調査を断念し、既採集資料の整理作業を実施した。

2009 年度は蒲江県鉄牛村遺跡を発掘調査したが、その規模と内容は注目すべきで、その後 2011 年まで調査を継続し、炒鋼炉複数起訴して製鉄副産物の大型廃棄土坑を発見した。中国で最初の発見例となった。また土器も多数出土し、その年代が前漢代中期と判明し、長江流域最古の製鉄遺跡と注目されている。このほか、2009 年度には沙子堂遺跡、2010 年度には鉄屎壩遺跡を発掘し、集中して製鉄遺跡を発見し、そのたびごとに資料整理を進めている。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

完全な形を復元可能な製鉄炉を発見することができ、また大廃棄土坑を発見することで、製鉄の減量、燃料、生成された鉄の種類も判明しつつある。復元可能な製鉄炉が後漢代（古石山遺跡 C 地点）であるため、前漢代あるいはそれ以前の製鉄炉そのものを発見したいところであるが、それは実現していない。しかしながら、予想以上の成果が上がっているといえる。

4. 今後の研究の推進方策

地表調査で漢代末期から三国時代にかけての遺跡である許鞋區遺跡を発見しており、最終年度はこの遺跡を発掘調査して、フィールド調査の最後としたい。そして今年度は、春期より現在までの発掘成果の整理に着手し、年度末には許鞋區遺跡の成果も含めて、研究報告を行うこととしたい。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

- ① 村上恭通、四川省成都平原遺跡群、考古学研究、査読有り、228、pp.125-127、2011
- ② 村上恭通、中国製鉄研究の諸問題、中国考古学、査読有り、第 8 号、2008、pp.53-60
- ③ 村上恭通、東アジアにおける鉄器の起源、新弥生時代のはじまり 第 3 巻、査読無し、pp.148-154、2008

〔学会発表〕（計 3 件）

- ① 村上恭通、四川成都平原における製鉄遺跡発掘調査と中国製鉄研究史、第 76 回日本考古学協会総会、国士舘大学、東京、2010 年 5 月 23 日
- ② Yasuyuki Murakami, Iron production in Han and pre-Han periods in Sichuan Chengdu plain, China, World Iron Conference(WIC2009), Natural history museum, London, 2009/2/19
- ③ 村上恭通、東アジアの政体間における鉄技術の伝播とその背景、嶺南大学校考古学研究大会、嶺南大学校、大邱、2008 年 6 月 28 日